

# 史料館蔵 「三井文庫旧蔵資料（袋綴本）」 の整理にあたって

第74号

平成13年3月

## 史料館蔵「三井文庫旧蔵資料（袋綴本）」 の整理にあたって

藤實久美子

### 1 研究テーマ

一九九八年四月から三年間、COE非常勤研究員（講師）として史料館に勤める機会に恵まれた。与えられた研究テーマは「マージナル史料としての書籍史料の体系的研究」で、その成果の一部は「近世書籍史料認識に関する覚書」（史料館『研究紀要』第三一号、二〇〇〇年三月）と題したメモにまとめた。今回は、史料整理の実務面について、報告するものである。

本表題にあるように、整理では、史料館所蔵の三井文庫旧蔵資料の一部分である袋綴本を中心に担当した。以下では、担当した資料群の性格を確認する意味で、三井文庫から史料館への移管、資料群のなかに占める整理対象史料の位置に触れ、ついで

整理の方針について、史料館員の研究蓄積に学びつつ述べる。なお、史料群名を「資料」としたのは、建物・書架・箱などをも三井文庫から引き継いでいるためである。

### 2 資料群の伝来の経緯

一九四七年、文部省は散逸のおそれのある史料を購入、その他の方法で集める方針を決定した。収集事業にあたっては、學術史料調査委員会を設置し、事務局を東洋文庫内の文部省分室においた。この事業と並行して保存公開機関の設置の準備が進められた。

一九四九年三月、国会で「史料館設置に関する嘆願書」が採択された。同年五月、文部省設置法が成立して、史料保存事業は「大学事務局の事務」

### 目次

史料館蔵「三井文庫旧蔵資料（袋綴本）」の整理にあたって	藤實久美子(1)
史料館所蔵史料目録第七一集「尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書（その二）」のあとがき	渡辺浩一(4)
簡易型真空凍結乾燥機の実用化に向けて	青木 睦(5)
論集「アーカイブズの科学の刊行準備」	(6)
「史料情報共有化システム」の開発について	(7)
「史料所在調査報告」	(8)
平成十二年度新収史料紹介	(9)
史料管理理学研修会修了者一覽	(9)
受贈図書	(11)
報	(16)

として正式に始まった。同年十月、史料類を保存する書庫を必要としていた文部省は、三井不動産株式会社との交渉の結果、戸越の三井文庫の建物を買得し、東洋文庫から史料を移した。その後一九五一年に三井文庫の敷地を国が購入し、当館の前身である文部省史料館は創立した。

三井文庫からの史料の移管は、東洋文庫に問借りしていた一九四九年に、三井高維収集史料を受け入れたことにはじまる。そして、史料館発足後の一九五一年から一九五四年にかけて、四つの史料群が移譲された。四つの史料群とは、三井高田蒐集史料（長田家文書）・三井高田蒐集史料（富士川交通史料ほか）・富山家文書外・聴氷閣旧蔵文書である。

一九六五年、三井文庫（東京都中央区上高田に所在。以下、「三井文庫」と表記）が財団法人として再発足した。これにあたり、当館で保管

### 3 資料群の整理状況と袋綴本

先記した四つの史料群（三井高維収集史料を除く史料群）については、三井家に入る前の原出所にもとづいて十八の史料群に分けた。摂津国大坂玉水町加嶋屋長田家文書・山城国京都飛鳥井雅豊日記・伊勢国飯野郡射和村大黒屋富山家文書・紀伊国和歌山本居家旧蔵紀伊統風土記編纂史料・聴氷閣収集古文書などである。これらと「三井高維収集史料」

については、受け入れ時の固まりに

留意した史料目録の刊行を継続中である。

また右の基準に馴染まないと判断したものについては、主題別分類を施して史料群名「武鑑類」を付与し、また史料群名「三井文庫寄贈図書内文書」を与えて、閲覧に供してきた。

「参考図書」の大部分は、一九八二年に凶書登録して（表紙の見返し部分に「三井家寄贈本」の印と、管理番号を押し印して管理）、主題別分類による請求番号を与えて、整理カードに情報をとるなど、仮整理を終えたものの、利用を館員にのみ限定してきた。

右の状況に鑑みて、今回、緊急にこれらの史料整理を行った。「国書総目録」（岩波書店、一九六三―一九七六年）に部分的に掲載があり、閲覧の請求があるためである。

整理対象は、一応、袋綴本であるかないかを基準にして、選別・決定した。「国書総目録」では、慶応三年（一八六七）以前のものを掲載するとしているが、慶応三年で区切る根拠は不分明（出版手続きの枠組の変化に即するならば明治三年・同八年・同二十年に画期がある）などから、今回は、史料の造本形態（袋綴）に基準を置いて、史料を選別す

ることとしたのである。これに伴い、結果、カード目録で閲覧に供してきた「武鑑類」と「三井文庫寄贈図書内文書」を整理対象に加えた。

#### 4 記述項目の紹介

先述の通り、整理対象とした史料については、これまでカード目録によつて仮整理・管理が行われてきた。ただし、カードに記した情報は必要最小限のもの（史料名・編著者名・冊数・大きさ・成立年・出版者名）であり、史料として混乱なく、かつ多角的に利用できるようにするためには、項目を補足する必要がある。以下、記述項目を列記する。

- 1) 請求番号
- 2) 認定史料名
- 3) 成立年
- 4) 大きさ
- 5) 巻数冊数
- 6) 紙数
- 7) 印写方法の別
- 8) 題簽に記された情報
- 9) 表紙に関する情報
- 10) 構成
- 11) 刊記（書写奥書も入れる）
- 12) 蔵書印記
- 13) 内容に関するキーワード

#### 14) 備考

項目の選定にあたっては、国文学研究資料館の細目調査カード（以下、調査カードと略記）を基本としたが、過不足感は否めなかった。これは、史科学では成立の事情および成立後の受容という点に重点をおいて史料認識を行うためである。調査カードに手を加えた点を含めつつ、書誌学・国文学的な記述と違うと考えられる点を記しておきたい。

4) 大きさ 史料の縦横のサイズを採寸した。書誌学では書籍の大きさを大本・中本・小本などと記すことが多いが、これらの用語は慣用的である。もともと史科学的に、たとえば小本をその料紙の使用様式から半紙摺折紙半裁判と呼称していく方向もあり得る。だが、いまだ議論が尽されていない。そのため、現段階では、用語の検討は今後に期した。

5) 巻数冊数 書籍史料は文書史料に比べて、一般に成立時の形を留めていないことが多い。改装されて、現状の巻数冊数と成立時のそれとが一致しないなどである。一方、利用者は巻数冊数を史料認識の一つの目安とする。そこで今回は、成立時の合綴・分冊の状態を記し、かつ出納

上の混乱を避けるために現在の合綴・分冊の状態を補記した。

7) 印写方法の別 これは文字の料紙への印字様式によつて史料を分け、たときの類別である。類別は、大きく墨による手書きの写本（請求番号X）と、印刷物（請求番号Y）に分け、印刷物はさらに、木版Ⅱ木活字・整板（請求番号Y1）と金属版Ⅱ銅版・活版（請求番号Y2）とした。

印写方法に注意した理由は、一つに、書籍の生成過程がこれらに現れており、史料認識を行う上で重要となるためである。たとえば、写本は非公認の商品として売買されたものか、あるいは限られた範囲で流通したもの、印刷物はその大方が、公認のもとに商品として出回ったものと考えられる。二つめは、史料保存上、墨に薬品を添加して印刷した物と、写本とが混在していて問題が生じるのではないかと考えたためである。先に示した三つの請求番号を用いれば、自ずから史料は分離されて配架されることとなる。

10) 構成 ここでは、書籍の内容構成に関するデータ（題字・序文・凡例・目録・引用書目・図・本文・跋文など）を採った。これは、序文・

跋文の有無が書籍の格式の高下を表わすほか、その執筆者の名前を挙げることで成立環境を考える情報が増すためである。

12) 蔵書印記 これには現所蔵者がかつて用いた統一的な蔵書印を除く、すべての蔵書印の釈文を記した。史料学的にみれば、史料と取得者との関係は重要であり、まずこの情報は欠くことはできない。

14) 備考 この欄には、様々な情報を補記した。形態に関しては、独立した表紙を持たず簡便な綴じである場合は「仮綴じ」と注記した。また丁の錯簡や、売り出し時に被せる「袋」が遺存（袋共）と補記）しているかなどの状態を記した。このほか価格、小口・背・本文などへの書き入れ、丁間に挟み込まれた史料に関する情報、三井文庫での整理状況をあらわす情報などを記した。また、書籍史料は文書史料に比べて、転売により持ち主を変える機会が多く、成立時の状態が失われる頻度が高い。改装のあとが認められる場合は、史料名の根拠となった書籍の部所を、たとえば「内題に：」「封面（封面とは表紙見返し部をいう）に：」「序題に：」という具合に、備考欄に記した。

以上のように、項目数は十四項目あり、文書史料の目録記述と比べて、多くの記述を行うこととなった。それは次の事情による。書籍史料は写本であれ印刷物であれ、情報複製物であり、相互の関係のなかではじめてその位置付けが可能となる。相互の関係を明らかにするには、史料を照合する作業を不可欠とする。そして史料は、基本的に多機関・多組織に分散して所蔵されている。

そこで、「読む目録」、読むことで史料の状態の大略を知ることができ目録、また史料に伝来経路が残されている場合はそれを把握できる目録記述をめざした。もちろん、目録だけで研究ができるわけではない。現状では、目録から調査・研究の手順を決めることさえできないという状況にある。

また前提として、全体の記述から、史料名・成立年認定などの根拠が明らかになるように心がけた。これには、いわゆる経験知によるのではなく、史料に基づく反証可能な記述をめざすという意味を込めている。

## 5 目録編成について

三井文庫旧蔵資料は、さまざま

原出所の史料群から引き出されて形成されたコレクション史料である。コレクション史料の整理を行う場合、原島陽一氏「コレクション史料の目録編成」（史料館編「史料の整理と管理」岩波書店、一九八八年）にある指摘に留意しておくべきである。

以下、引用すれば、「コレクション史料にあつては、各個史料が本来所属していた原出所と、コレクションという二次の出所とがあるが、整理にあつてはこの二つの出所を併存させ、それぞれの配列形態にも配慮する必要がある」（三五四頁）となる。しかしながら、原島氏も他の箇所ですべられるように、これは受け入れ機関が調書の作成を周到に行つていて、はじめて可能となる。

三井文庫旧蔵資料は、先述の通り、史料館が設立する前後に受け入れられており、受け入れ時の状況を復元することは難しい。たとえば、目録編成上で大項目「1名鑑」に入れた書籍に残された書き入れや蔵書印は、「三井京本店」・「三井家編纂室蔵書」（三井家編纂室は明治三六年設置、大正七年に三井文庫に発展解消）・「新町三井家」などと、様々な原出所をもつ史料群の混在を示している。また大項目「2. 地誌」

「3. その他」に入れた書籍には、一次出所のひとつとして考えられる「本居文庫」本が含まれており、かつては「紀伊国和歌山本居家旧蔵紀伊統風土記編纂史料」と一群をなしていたといえる。

また、そもそも二次の出所（ここでは三井文庫）での秩序に沿った目録編成を行うには、今回、整理対象外とした「三井家寄贈本」のなかの洋装本や史料館所蔵の十八の史料群、「三井文庫」・東京大学・カルフォルニア大学の史料を、同一の基準をもって記述しなければならぬ。

つまり現段階では、いつどこでどのような意図で史料の分離と統合が行われたのが不詳であり、また三井文庫旧蔵資料の一部を披見したにすぎない。以上から今回の整理では、構造分析目録ではなく、主題別という史料学的にみれば後退した編成をとることにした。とはいえ、記述では史料認識・利用・保存に向けて少しの前進はあったのではないかと思う。なお、整理結果は、二〇〇一年度中に、「史料館所蔵史料目録」第七四集として刊行する予定である。

COE非常勤研究員（講師）

## 渡辺 浩一

本には通常「あとがき」というものが付いている。文書目録は歴史叙述のような「作品」ではなく、実務的な検索手段であるから、当然そのようなものは付けない。しかし、当史料館では一人の担当者がかなりの思い入れをもって目録を刊行するからであろうか、本誌に何事かを書く機会を与えられる。

また、近年歴史系博物館の展示を「展示叙述」として歴史叙述の一形態として位置づける考え方もあり、事実、高質の展示図録も統々と刊行され、研究史の一郭を形成するようになってきた。それには到底及ばないけれども、文書館における目録も「目録叙述」という歴史叙述の一形態と捉えてもよいのではないかという気もする。

このように考えると目録も「作品」としての側面がないわけではないから、この記事を「あとがき」と題することも許されるであろう。

一つ目を書きたいことは、地主引継文書についてである。今回の目録

は小項目に「地主引継文書」を立項したのが一つの特徴である。四郎兵衛新田と三州伏見屋新田にそれがあ

る。地主経営権の移動に伴って関係文書が旧地主から新地主が引き渡されることに着目して、その文書をひとまとめに目録上に表現してみたのである。目録解題(二五頁)にも記したように、譲渡証文のなかに、その新田の開発証文、検地帳・絵図などの経営権所有者基礎史料、それら年々の地主経営に必要な基礎帳簿と地主小作関係を確定する証文、といった諸文書が、経営権と共に引き渡されるのが明記されているのである。さらに、神戸家が一七一一年に伏見屋新田を売却した際には、新地主から神戸家の現地支配人に引き継ぎ文書の受け取り目録が提出されている。

実は、私がこの種の史料を見たのは今回が初めてではなく、日本福祉大学が行っている中塾酢店文書の第一回整理に参加した際、中塾家が近世後期に三州伏見屋新田(何という

偶然!)を取得した際に関係文書が引き継がれることが判明する史料を見た記憶がある。ということは、神戸家文書中の三州伏見屋新田文書と中塾酢店のそれとが、具体的につながってくる可能性があることになる。当新田の研究をする方が現れた暁には是非その点も追求されることを期待したい。

ともあれ、この記憶が「地主引継文書」を立項することに私を押し出したのである。四郎兵衛新田の場合、引継目録もなければ文書引継文書のある史料もないのであるが、土地取得以前の文書は一応引き継ぎ文書と考えてよいのでないかと仮定して目録編成を行った。根拠が希薄で乱暴かとも思ったが、取得以前に四郎兵衛新田の文書は持っていないということが史料で語られている(一八頁)ので、まあ大丈夫だろうとは思っている。ただ史料は時々嘘をつくので、ウラを取る必要はあるのだが。

さて、従来の文書保管史研究では、村役人の引継目録などは分析されてきたが、こうした地主引継文書の分析・紹介例はまだ現れていないのではないだろうか。あるいは私が知らないだけかもしれないし、地主経営史の研究者にとっては常識に属するこ

となのかもしれない。さらに、経営権譲渡とより一般化して考えれば、商業経営でも類似のケースがある可能性があるのでないかと想像を逞しくしている。この点についても商業史研究者のご教示を乞いたい。

文書保管史研究の成果は、文書群の階層構造を分析する上で非常に有効な手がかりになるので、歴史研究としては「金太郎館」であっても、実務上はもつと多くの事例が積み重ねられる必要がある。地主引継文書の研究は、その意味で文書保管史研究の新しい分野といえるだろう。

もう一つ「あとがき」として記しておきたいことがあったのであるが、もはや紙幅も尽きたのでこのあたりで筆を置きたい(キーボードを閉じたい)と思う。在外研究中であるために原史料を見ることができず、またあいまいな記憶を確認する術もない。この点、不確かな記述に終始していることを読者にお詫び申し上げます。

最後に、神戸家文書を現在まで受け継がれてきた、現神戸家当主典和・洋子ご夫妻をはじめ、歴代のご当主とご家族に感謝申し上げます。(二一世紀最初の月食の夜に、ケンブリッジ、ダーウィン・カレッジにて)

## 簡易型真空凍結乾燥機の実用化に向けて

青木 睦

史料館では、「水濡れ史料」「火災被害史料」の緊急対応としての処置に応じるため、「簡易型真空乾燥機」と「冷凍庫」を購入した。写真のように、長机一台に設置できる小型のタイプである。現在、手漉き和紙の実験用のサンプルや酸性紙単行本・雑誌等での実験を行っている。今後、被災した史料を処置する機器としての実用化に向け、研究を進めているところである。

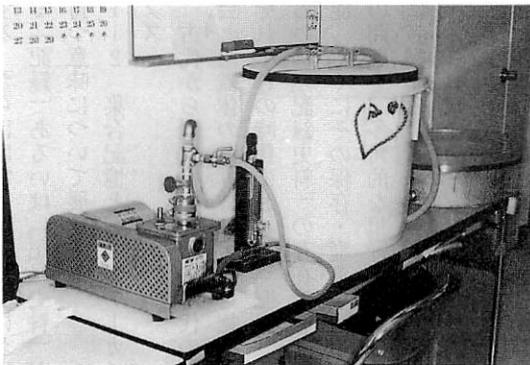
〔真空凍結乾燥法の実際〕 真空凍結乾燥法は、水が圧力4ミリHg以下では固体としての水か、気体としての水蒸気しかかなれない性質（昇華と）によって、固体が液状になることなしに直接気体になること）を利用した原理である。予備凍結し、水分が凍結したものを真空凍結乾燥機の庫内に入れて真空に近付けて水分を昇華させ、出た水分を取り除く。考古の木製遺物等が自然乾燥してしまうと収縮してしまうのを防ぐ保存処置として広く実施され、埋蔵文化財センター等に設置されている。但し、日

本において文書館・図書館で設置しているところはこれまではなかった。凍結させてからの処置の利点は、第一に自由な液体が凍結されるので濡れておこるニジミを停止させ、菌虫害も防止できること。第二に、大量な処置に対応できるため、凍結期間を利用して適切な対策を計画することができることにある。被災史料の救助において、被災から救助までの時間は短時間であればあるほど救われる史料の状態をよくする。被災後、48時間以内までの凍結がカビなどの害を受けない目安とされる。さらに、真空凍結乾燥法独自の利点は、凍結させた状態からの処置のため、①紙の癒着がおきず、紙の変形が極めて少ないことと、②凍結・真空乾燥時の時間短縮、その間の人手を省けるので、全体的なコスト減が図れる。

真空凍結乾燥法の流れ ①事前調査  
— 処置経過を記録しておくため、史料の寸法（縦・横・厚み）、水分を含めた本体の重量測定・特殊な形態な場合や挟まれた文書の有無など、

表面観察の範囲で紙質や記録媒体（染料等）・汚損や虫による加害など劣化の状況・写真撮影（全体と被災状況がよくわかる部分）の記録を作成する。②凍結— 史料は、冷用ビニール袋に封入して凍結する。家庭用冷凍庫の場合、 $-10\sim 15^{\circ}\text{C}$ で凍結させる。冷凍温度が $40^{\circ}\text{C}$ まで下げられると氷の結晶粒が大変小さくなり、紙の繊維層への影響が少なくなる。③真空乾燥— 簡易型真空凍結乾燥装置は、史料を入れる減圧対応のチェンバー部分と、真空計を接続して真空のための一般的ポンプとを組み合わせた

ものである。チェンバー内は、圧力4ミリHg以下の真空域になると自己凍結を始め、室温状態で作業ができる。圧力が一定で稼働し続けると乾燥が進行する。圧力が一定であると、凍結した水分は昇華し続けて終了に至る。昇華した水分はコールドトラップに回収される。④事後処置— 乾燥させたものは、一時的にかなり乾燥した状態であるので、室内の湿度で紙に水分を戻していく。⑤史料を開く— 紙の状態を観察しながらページを一枚ずつ開いていく。



簡易型真空凍結乾燥機全景(上)と水濡れ史料を入れ乾燥させるチェンバー(下の右)とコールドトラップ(下の左)

# 論集『アーカイブズの科学』の刊行準備

平成八年度から五年計画で「記録史料の情報資源化と史料管理理学の体系化に関する研究」を実施し、一三回の研究会を開催し、その成果を研究レポート三冊として公表した。こ

うした作業を経て記録史料学の体系化を目指して論集『アーカイブズの科学』の刊行準備を開始した。

今年度は一月二二日に第一回編集委員会を開催し、論集の構成案の検討、執筆者の確定を行い、翌二二日に執筆者会議を開き、論集への執筆概要の報告を行い、その後の編集委員会で執筆内容の調整をはかった。一三年二月八日、九日に第二回編集委員会、執筆者会議を開き、前回欠席者による執筆内容の概要報告と刊行準備の打ち合わせを行った。

## 論集『アーカイブズの科学』

概要は次のとおりである。

### ① 刊行の趣旨

記録史料を歴史情報資源として系統的に保存・活用していくための理論と技術を研究し、これを独自の学問分野として体系化することを目的として、研究を進めてきたが、伝統

的な紙記録に加えて新しい電子媒体記録が次々に登場し、情報の交換や保存の方法も、これまでとはまったく異なる電子的な手法が広まりつつある。このような状況のなかで、過去から現代にいたる多様かつ膨大な記録史料の保存・活用システムを効果的に築き上げる学問分野の構築の要請にこの論集は応えようとするものである。

図書館など史料保存利用機関職員や記録史料学に関心のある研究者・学生など広い読者を対象とし、出版社から出版し、一般頒布する。

### ② 論集の構成

序章 アーカイブズの科学とは

I 情報とアーカイブズ

— 歴史的アプローチ —

I-1 情報と記憶・記録

人間と情報そして記憶・記録との関わりを歩み、社会学等関連諸科学の議論をも盛り込みながら広く論じる。そのなかで情報が口承の世界から文字等の記録の世界へ移行したことをふまえて、「記録」あるいは「記録史料」が占める位置を考察

する。さらには電子情報社会における「記録」あるいは「記録史料」が持つ意味について展望する。

I-2 集合記憶としてのアーカイブズ

古代から現代にいたる各時代の社会と組織体のあり方に視点を据えて、それぞれの時代における「記録」あるいは「記録史料」の存在形態と機能、とくにその保存・廃棄・活用等の問題を、多角的な視野から歴史的に考察する。

I-3 アーカイブズの科学へ

アーカイブズそのものを対象とした学問の内外における発展、およびアーカイブズに関連する隣接諸科学（歴史学、古文書学、編纂学、博物館学、図書館情報学等々）について考察し、新しいアーカイブズ・サイエンス（記録史料学）の構築を展望する。

II 図書館とアーキビスト

アーカイバル・コントロールを実現するための図書館およびその専門職員であるアーキビスト教育のあるべき姿を検討し、「地域」でのアーカイバル・システムを構築する課題を説明する。

II-1 アーカイブズ・システム論

II-2 図書館の立地環境と施設

II-3 アーキビストの教育と養成

III 日本のアーカイブズの構造

様々な記録史料群について、時代別、分野別にとりあげ、組織理論的な構造把握を中心に、科学的理解の方法を示す。図書館等における史料整理実務の観点から、現実に残存している記録史料群をとりあげ、整理の前提として残存史料群の構造分析をどう行うか、その具体的手法について述べる。

IV アーカイバル・コントロール

IV-1 ドキュメンテーション・プログラム

現在保存されている「記録」をアーカイブズとして保存するための理論と技法を説明する。

IV-2 アーカイバル・データの構築と提供

アーカイブズのデータを編成・記述し提供するシステムを説明する。

V アーカイブズの保存と修復

アーカイブズの物理的保存についての理論と技法を説明する。

(丑木幸男)

# 「史料情報共有化システム」の開発について

◇「システム開発科研」この一年

本紙七二号で報告した「システム開発科研」(歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム開発に関する研究)では、研究の第二年度である平成一三年度に史料情報の「共同集約」「共有化」のための具体的なシステムの開発をめざすこととしていた。今年度は、前年度の研究会で各文書館の方々からいただいた意見を踏まえて、あるべきシステムの検討とそれを実行し得るシステムの構築(外部への発注)を行った。

館内では、システムを発注した一〇月末まで二四回の委員会と一回の館内研究会によって構想を練り、「仕様書」を煮詰めることができた。担当した同科研の館内委員は、代表者の鈴江及び山田哲好、大友一雄、山崎圭各教官、さらに今年度から史料館の助手として勤務することになった五島敏芳教官である。

◇システムの開発の考え方

システム開発にあたっての考え方は、次のようなところに置いている。

第一に、全国(国外でもよい)の

史料所蔵機関(文書館などの施設のほか史料を所蔵している個人も含まれる)が所蔵し公開している史料情報を誰もが自由にインターネットを通じて検索し把握でき、またどの史料所蔵機関でも公開したい所蔵史料の情報を提供できるものとする。

第二に、情報を共用化するため一定の共通したフォーマットを設定し、これによってデータを集約する。このフォーマットとしては、多くの所蔵機関が共有化できる国際標準記録史料記述ISAD(G)に準拠したものとする。

第三は、このシステムへの情報提供は、各史料所蔵機関自らの責任と努力によって行う。システムの管理は史料館が当たるが、史料館は参入する所蔵機関の登録とフォーマットの提供、システムの維持管理にとどめる。またシステムへの参入機関は無限に増殖しうるものとする。その意味では前回触れた「集中型」でも「分散型」でもなくなる。

第四に、ここで登録する史料情報は文書群単位とする。利用者がこれ

以下のシリーズレベル、アイテムレベル(個別の史料)まで検索する場合は、各機関のネットワークに入っていくことにする。ただし、フォーマットの各事項について文書群を横断的に検索できる方法は用意する。

◇共有システムの構成要素

このような考え方に立つて本システムは、三つの機能すなわち「史料情報入力編集機能」「史料情報検索機能」「史料情報一括登録機能」を構成要素として構築した。

まず「入力編集機能」では、史料群記述情報を登録・修正画面で登録し、内容のチェックを行い、検索用のデータベースに登録する。なお、この機能では参入を希望する所蔵機関の登録を含んでいる。

「情報検索機能」には、史料情報を階層的に閲読することを「絞り込み検索」として実現し、次いで所蔵機関・史料群のデータを都道府県↓所蔵機関↓史料群の順に一覧表示し、さらに史料群記述情報の詳細を表示出来るようにした。また「全文検索」では、データ検索用のフォーム画面で検索条件を入力して検索結果を所蔵者ごとにまとめて一覧し、次いで一覧画面で選択された史料群の詳細

な情報を表示することとした。

「一括登録機能」では、史料群のデータをデータベースに一括登録できるようにになっている。

◇今後の取り組み

最終年度に当たる平成一三年度はデータ入力に協力していただく館をさらに増やし、各機関に検索用インターフェイスを載せて、機関を横断する検索を実験的に行う予定である。さらにその成果を検証する研究会を再開して、実用化への展望を開きたいと考えている。

またこのシステムでは、各機関にネットワーク環境が存在しているという前提であるが、ネットワーク環境の無い機関でも参入できることを考慮し、当分の間、史料館が登録を代行することも考えられる。なお、本年度のシステムの設計・製作は、日立製作所が担当した。

(鈴江英一)

## 信濃国高井郡東江部村山田家文書 (3)

一昨年度、昨年度に引き続き今年度も十月二日から六日まで、同二三日から二七日まで、の二回にわたって長野県中野市の山田顕五氏宅で所蔵文書の調査を行った(これまでの調査経過については『史料館報』七〇・七二号の記事を参照)。参加者は、山田正子氏、長野県立短期大学

横山憲長氏、長野県立歴史館から樋口和雄氏、館林弘毅氏、梅原康嗣氏、田玉徳明氏、小野和英氏、伊藤羊子氏、溝口登氏、春原正毅氏、祢津宗伸氏、新津新生氏、田村栄作氏、東京大学大学院の多和田雅保氏、当館から高木俊輔、山田哲好、青木睦、藤實久美子、五島敏芳、山崎圭の都合二十名であった。この他に、山田家の皆様、中野市教育委員会より例年と同様に多大な御助力を頂いた。心より御礼を申し上げる。また、今年度は山田家と関連の深い文書群二件(山田理右衛門家文書、綿貫家文書)をマイクログ写真により収集した。これについては本号の「新収史料紹介」の記事をご覧いただきたい。

これまでに把握した山田家文書の

全体量(当館所蔵分を除く現地所蔵分)は容器の数にして五八で、昨年度は多数の抽斗をもつ筆筒に取り組んだため六容器分しか調査が進まなかったが、今年度は一一容器を調査することができた。以下、各容器の内容について簡単に紹介したい。

八番は、八つの抽斗と二段の棚をもつ筆筒で、山田家ではこの八番と九番の二つの筆筒を特に重要と認識し、長らく施錠したままにしていたとのことである。各抽斗にはぎつしり文書が収められているが、量的には明治初年の田畑買入証文(これらを束にして包紙に上書したもの)、幕末維新期前後の借金証文・質地証文が多く、点数を占めている。

九番は、一一の抽斗をもつ筆筒(内二つはカラ)で、他に比べて近世のものが多く、近世から明治期の史料がほとんどである。最下段の抽斗には享保期以降六点の分厚い「萬諸差引覚帳」も収められ、これらは山田家の経営を知る基本史料の一つであろう。

一一番は、菓子子の桐箱に入った実

測東京全図と多量の「炭酸紙」(カーボン紙のこと)である。

一四番は、二つの茶封筒をビニール紐で括つたもので、この中には文化・文政から天保期にかけて活躍した文人の七代山田庄左衛門松齋に係する扇子一三本が入っていた。

一五番は、新聞紙にくるまれた文書で、酒類蔵出帳、仕込帳など明治二四・二五年の山田家の酒造関係帳簿八冊である(以上の五容器は質蔵二階分)。

二六番は、「永統講諸帳面并紙圍入」という貼紙のある小型の木箱で、弘化・安政頃を中心に明治一〇年までの講関係帳簿一三点が収められている。永統講は山田家一族の間で資金を融通し合う無尽であったと考えられる。

三一番は桐箱入で、箱表に貼紙の剥げた跡があり、中身は太々講関係の帳簿、講開催の廻章などである。

三三番は黒い漆塗の箱で懸子と抽斗が付いており、懸子の中には明治二年頃の北信商社関係書類、抽斗の中には人参入袋など、箱本体の中には文政一三年の「父上様御遺言」(山田松齋)、安政四年に松平伊賀守(上田藩主)から香炉を拝領した際の書付などが収められている。

三五番は「松齋関係書類」と貼紙のある抽斗付の白い箱で、昭和三年に平野村長が長野県知事宛に「故山田松齋文化風教ノ為貢献」との理由で贈位を内申した際に揃えられた参考資料で、『經典穀名考』、『警福性辨』など松齋著書の版本や頼山陽からの書簡写真などがある(以上の四容器は文庫蔵二階分)。

四四番は段ボール箱入で、主に昭和五・六年における平野村信用組合の貸付金帳簿類二〇点程である。同組合はかつて山田家裏門横の部屋に事務所を構え、山田庄左衛門が組合長を勤めていた。

四五番も段ボール箱入で、江部合名会社(山田家の財産管理会社)の大正後期の日記帳・金銭出納帳四冊である。平野村信用組合と江部合名会社の文書は共に味噌蔵二階に保管されていたものを比較的最近になって段ボール箱詰して二階蔵一階に移したとのことである(以上の二容器は二階蔵一階分)。

この他にも今回は参加者の専攻に応じて書籍、掛軸・屏風などの調査を行うことができた。残された未整理文書はまだ多いが、今後も着実に調査を続けていきたい。

(山崎 圭)

# 平成十二年度 新収史料紹介

⑥はマイクロフィルムによる収集を示す。

## ⑤ 信濃国高井郡東江部村

### 山田理右衛門家文書

当館では北信濃の地主として知られる信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書を所蔵していることから（この目録は来年度刊行予定）、今年度はそれとの関連で同家の分家である山田理右衛門家の文書を収集した。理右衛門家はしばしば東江部村の名主役を勤めたため、基本的な村方文書を数多く残している。ただしこの家は明治末年に千葉へ移住したため、現在は跡地に土蔵一棟を残すのみで、文書の多くは長野県立歴史館と山田顕五氏（庄左衛門家）の所蔵になっている。このうち山田氏所蔵分は全部で段ボール箱二箱分であるが、今回は一箱分を撮影した。その内容は多岐にわたるが、宗門改帳・高反別帳など村役人関係文書のほかに酒造株関係の文書が比較的まとまって残されている。

（現蔵者）山田顕五氏、長野県中野市江部、撮影点数一四七点、一六九五コマ、四リール）

## ⑥ 信濃国高井郡中野村

### 綿貫家文書

上記の文書と同様、本文書についても当館所蔵山田庄左衛門家文書との関連で収集した。綿貫家は、山田家が幕末期に郡中取締役・掛屋などとして幕領中野代官所と密接な関係をとって結んだ際に、陣屋元の中野村にあつて名主役・郡中代役などを勤めていた家である。同家の文書は、郡中代としての分厚い御用留十五冊（文政十一年～明治二年）、中野組商人名前帳など一部が綿貫氏の自宅に所蔵されているが、大半は中野市立図書館に寄託され、衣装ケース二缶に収められて保管されている。今年度は綿貫氏自宅分の全てと図書館寄託分の一部（およそ三分一程）を撮影した。中野代官所の文書が残されていない中で、この地域の幕領支配の問題を検討するためには、綿貫家文書は貴重であると考えられる。

（現蔵者）綿貫隆夫氏、長野県中野市三好町、撮影点数六七点、四二八三コマ、八リール）

## 2000年度（通算46回）史料管理学研修会レポート一覧

### 〔長期研修課程〕

名前	レポート題目
逢坂 俊男 (徳島県立文書館長)	学校教育資料の整理と保存 徳島県立脇町高等学校 学校芳歴館史料資料の展示と目録作成から
内山 達也 (城西国際大学大学院)	口頭伝承の特質とその利用について —アイヌの口頭伝承を用いて—
浅野 祐一 (千葉大学附属図書館情報管理課)	大学図書館における記録史料保存管理活動の現状と課題—主に利用サービスを中心として—
高橋 瑞江 (図書館情報学大学院)	大学図書館と情報管理—Web上における古文書管理の方法とこれからの可能性—
尹 秀玉 (お茶の水女子大学大学院)	中国におけるアーキビスト教育と養成について
関口 豊樹 (朝霞市博物館事業係)	朝霞市博物館における古文書整理～史料学的目録記述を目指して～
李 海蘭 (お茶の水女子大学大学院)	中国の档案館
今村 千文 (中央大学大学院)	文書館と研究者～久米美術館を一例として～
田頭 雅子 (中央大学大学院)	地域博物館における史料整理・分類に関する考察
高野 弘之 (中央大学大学院)	「陸軍にみる文書管理」～法令を中心として～
向井 佳壽美 (中央大学大学院)	北区行政資料センターにおける保存・管理の現状と課題

名前	レポート題目
師岡 正樹 (中央大学大学院)	一般利用者に対する文書館の普及活動
横田 稔 (中央大学大学院)	高麗神社・高麗家文書の構造分析の試み
小宮 佐知子 (中央大学大学院)	建造物保存と記録史料学の関連性の考察
青木 裕美 (中央大学大学院)	桐生新町書上家文書の構造について
秋山 正典 (駒沢大学大学院)	【新編高崎市史】編さん事業と文書館建設について
鈴木 芳枝 (駒沢大学大学院)	相沢晴長家文書整理と問題点
仲野 克麻 (駒沢大学大学院)	インターネットによる文書館の広報活動
林 謙介 (駒沢大学大学院)	近世寺院の文書保存と伝来 —遠江国敷郡大福寺文書を事例に— 史料管理学に対する疑問
堀田 和子 (駒沢大学大学院)	
山岸 裕 (駒沢大学大学院)	「上杉家文書」と米沢藩の文書整理
金沢 幾子 (一橋大学附属図書館情報管理課専門員)	一橋大学附属図書館の貴重史料管理 —福田徳三関係史料を一例として—
佐藤 健 (群馬県立文書館古文書課)	文書館の普及活動と学校教育との連携 —学校教育における文書館の利用・活用の可能性を探る—

名 前	レポート題目
松本由佳 (千葉大学大学院)	『鈴木家文書』(武蔵国横見郡和名村)にみる記録管理のあり方とその認識について
金子奈央 (東京大学大学院)	
細谷昌弘 (専修大学大学院)	近世村の文書管理
竹林晶子 (国立国会図書館政治史料課)	一丹波国桑田郡黒田村の事例一 憲政資料の目録について 一電子化の前提として一
西村慎太郎 (学習院大学大学院)	『大内裏図考証』濱島家本の史科学的検討と一九世紀初頭の「公家社会」
古賀康人 (帝京大学大学院)	『漱石文庫』研究 一小宮豊隆「漱石博物館」構想から「湯本レポート」を言及し「漱石文庫」の構造分析に到る一

名 前	レポート題目
和田華子 (お茶の水女子大学大学院)	ミクロネシアにおけるアーカイブズ
吉村日出東 (九州大学大学院)	文書の管理とその専門職員に関する一考察
矢澤直子 (住民図書館)	市民運動資料の動的・ニューロンの性格とアーカイブズ論一平達資料を題材に一
信賀加奈子 (財)東洋文庫チベット研究室)	archives自身のarchives自身のためのはたらき
真垣あや (神奈川県立公文書館行政資料課)	神奈川県立公文書館における図書資料の取り扱いについて

〔短期研修課程〕

名 前	レポート題目
田澤明子 (山口県立図書館参考課)	山口県立山口図書館における郷土資料の収集と提供について
奥野進 (函館市役所総務部市史編さん室)	函館市における行政資料の保存について
山下堅太郎 (四国工業写真(株)文化事業部)	記録史料の調査におけるスケッチの役割と実践
吉田誠 (京都大学数理解析研究所図書部)	京都大学図書館群における学位論文の収集と利用サポートの現状
林千寿 (八千代市立博物館未来の森ミュージアム芸員)	松井文庫(所蔵文書の整理・保存・利用について一現状と課題一
南方長 (山口県文書館)	学校教育と文書館 一山口県における現状と展望一
〔藤〕藤邦彦 (福岡大学図書館図書部課図書整理係)	福岡大学図書館における文書の整理について
柳瀬吉雄 (琉球大学附属図書館参考調査係)	図書館の中の史料目録:「沖縄関係資料目録」の今後
小笠史芳 (静岡県立中央図書館歴史文化情報センター)	歴史文化情報センターにおける業務の現状と課題、及び今後の展望
松下修也 (宇土市教育委員会文化振興課市史編纂室)	宇土市史編纂室における史料の収集・保管・活用について
森田喜久男 (鳥根県教育庁文化財課古代文化センター)	災害時における歴史資料の調査と保存 一鳥取県西部地震(山陰中部地震)被災史料救出ネットワークに参加して一
山村和代 (高知市立自由民権記念館学芸係)	高知市立自由民権記念館情報システムと収集資料管理の現状と課題
山田伸一 (北海道開拓記念館事業部展示課)	北海道開拓記念館における記録史料管理の現状と問題点
西村朋子 (岡山大学附属図書館情報サービス課参考調査係)	池田家文庫絵図データベースの利用における問題点について
内田てるこ (鳥根県庁総務部総務課文書係)	『鳥根県近代行政文書』の目録作成に向けて
飯島礼子 (奈良女子大学大学院)	アーキビスト養成についての一考察
村上由佳 (奈良女子大学大学院)	史料保存促進に向けて 一市民・アーキビスト・歴史家の関係から一

名 前	レポート題目
飯田奈美子 (鳥根県立図書館資料課郷土資料係)	鳥根県立図書館における近世史料の目録作成について一池尻家文書目録の現状と課題一
白根恵子 (福岡県立図書館郷土資料課)	福岡県(県庁)における公文書の管理・保存の現状と課題
中山修一郎 (豊洋インテリジェンス(株)営業統括部)	インターネットの上での古文書のありどころの情報公開について
小倉真紀子 (東京大学大学院)	正倉院に残された造石山寺所関係文書再整理の試み
松本美和子 (宍道町史編纂室)	宍道町庄司家文書の課題 一活用と今後の周辺調査を考慮して一
増田豪 (延岡市教育委員会文化財係)	延岡市における史料収集・保存の現状と課題
壇上浩之 (鳥根大学大学院)	鳥根大学附属図書館における資料の保存、管理、利用について
樋野俊晴 (鳥根県庁総務課法令係)	地方における家文書の保存と課題
藤原時造 (隠岐島後教育委員会社会教育課)	隠岐島後における史料管理の現状と課題 一西郷町立図書館を中心に一
久垣真由美 (福岡県地域史研究所県史編纂事務)	安高文書における史料の活用について
多久田友秀 (宍道町教育委員会宍道町史編纂室)	地域史料の調査・整理と目録編成について 一『宍道町古文書目録』作成過程からの一考察一
大國由美子 (宍道町教育委員会宍道町史編纂室)	文書カードの記入法と史料の性格について 一宍道町史編纂室の場合一
錦織希衣 (鳥根県立図書館資料課郷土資料係)	鳥根県における史料保存の現状と課題 一県東部を中心として一
若槻琴枝 (安来市立図書館安来市教育委員会生涯学習課)	安来市立図書館における史料保存の現状と課題
蒲生倫子 (大社町立図書館司書)	大社町立図書館における「大谷文庫」の整理について
高橋容子 (出雲市立図書館)	移管された野報の評価・整理・保存について
田中美智子 (福井大学附属図書館図書情報係)	福井大学における資料の収集保存と今後の課題

# 受贈図書 平成十一年度 (二)

(一) 内は寄贈者名(敬称略)ただし、省略されている場合があります。

〔福岡市博物館〕 収藏品目録 13

〔福岡市博物館〕

柳川古文書館史料目録 第9～11集

〔九州歴史資料館分館柳川古文書館〕

九州大学関係史料目録〔九州大学大

学史料室〕

諸藩江戸屋敷のネットワーク〔国文学研究資料館〕

ネットワークの世界〔仲本秀四郎〕

北谷町公文書館例規資料〔北谷町〕

日本古典籍書誌学辞典〔岩波書店〕

出版人古田敬三さんを偲ぶ〔鈴江栄一〕

主婦の友社八十年史〔主婦の友社〕

主婦の友社八十年図書総目録〔主婦の友社〕

主婦の友 第一号復刻版〔主婦の友社〕

経済史文献解題 1997〔平成9〕

年版〔思文閣出版〕

思文閣古書資料目録 善本特集 第9輯〔思文閣出版〕

日本欧米比較情報文化年表〔1400年～1970年〕〔雄山閣出版〕

岡山大学文学部研究叢書 14、16

人文研ブックレット No.5～8〔同志社大学人文科学研究所〕

立命館土曜講座シリーズ 2、3

〔立命館大学人文科学研究所〕

類縁機関名簿 1995年版〔東京都立中央図書館〕

〔天理大学附属天理参考館〕 資料案内シリーズ No.25〔天理大学出版〕

〔宮内庁書陵部〕

〔宮内庁書陵部〕

〔宮内庁書陵部〕

〔宮内庁書陵部〕

〔宮内庁書陵部〕

尊徳の森〔有隣堂〕

尊徳の裾野〔有隣堂〕

北野天満宮史料〔8〕〔北野天満宮ガイドブック 私たち、人間の権利〕

〔立命館大学人権問題研究室〕

いざなぎ流御祈禱の研究〔高知県文化財団〕

近世仏教と勸化〔毛塚万里〕

喜多院日鑑 第10巻〔文化書院〕

喜多院日鑑 第7巻 読み下し〔川越喜多院〕

経塚遺文〔東京堂出版〕

伊能図に学ぶ〔新沢義博〕

図解江戸城をよむ〔原書房〕

近世武家官位をめぐる朝幕藩関係の基礎的研究〔橋本政宣〕

幕末維新の風刺画〔吉川弘文館〕

日本20世紀館〔小学館〕

洋学資料による日本文化史の研究

X〔吉備洋学資料研究会〕

胆沢町古文書資料集 第4～7集

〔胆沢町文化財調査委員会〕

寒河江市市編纂叢書 第58集〔寒河江市教育委員会〕

福島市史資料叢書 第71、72輯〔福島市教育委員会〕

西郷村史資料補遺 第1～4集〔西郷村教育委員会〕

郷村教育委員会

概説水戸市史〔水戸市役所〕

八千代町史〔資料編Ⅰ、Ⅱ〕〔八千代町〕

村の歴史と群像〔東海村〕

東海村諸家文書史料〔東海村〕

安中市史 第3巻〔安中市〕

いまいち市史 通史編Ⅲ〔今中市〕

茂木町史 第1～4巻〔茂木町〕

図説茂木の歴史〔茂木町〕

鹿沼市史叢書 1、2〔鹿沼市〕

馬頭町中世文書集〔馬頭町〕

草加市史 資料編Ⅳ、Ⅴ〔草加市〕

都幾川村史資料 4〔5〕、〔6〕 近世編〔都幾川村〕

与野人物誌〔与野市〕

板橋区史 資料編1、4、5〔板橋区〕

多摩市史叢書〔13〕〔多摩市〕

世田谷区史料叢書 第14巻〔世田谷区教育委員会〕

与板町史 通史編 上巻、下巻〔与板町〕

山梨県史 史料編15〔山梨県〕

瑞浪市史料集 第1、2号〔瑞浪市民図書館〕

岐阜県教育史 史料編〔岐阜県教育委員会〕

裾野市史 第5巻 資料編〔裾野市〕

東海道と袋井宿―どまん中袋井宿の今昔―〔袋井市〕

小山町史 第8巻〔小山町〕

沼津市史叢書 5、6〔沼津市教育委員会〕

地域史深溝〔地域史深溝編さん委員会〕

新修名古屋市史報告書 4〔名古屋市総務局〕

四日市の部落史 第1巻 史料編〔四日市市〕

- 叢書京都の史料 3〔京都市歴史資料館〕
- 大阪市史料 第52輯〔大阪市史料調査会〕
- 姫路市史資料叢書 1〔姫路市史編纂室〕
- 岩邑年代記(10)〔岩国徴古館〕
- 都農町史〔都農町〕
- 都農町史 年表、地図〔都農町〕
- 奄美史料(28)〔鹿児島県立図書館奄美分館〕
- 江戸幕府役職武鑑編年集成 第19、20巻〔東洋書林〕
- 乃木希典全集 補遺〔図書刊行会〕
- 中山修一先生追悼文集〔長岡京跡発掘調査研究所〕
- 私たちのモース 日本を愛した大森貝塚の父〔大田区郷土博物館〕
- 江戸後期筑前閣秀展〔財〕亀陽文庫・能古博物館
- 大阪をつくった男〔文藝春秋〕
- 行政情報公開部会報告〔行政改革委員会〕
- 県境を越えた地域づくり〔岩田書院〕
- 講座・情報公開〔井出嘉憲〕
- 愛媛大学経済学系叢書 1〔東京経済情報出版〕
- 先物・オプション市場の計量分析〔慶應義塾大学産業研究所〕
- 実証経済分析の基礎〔慶應義塾大学産業研究所〕
- 産業研究所
- 環日本海経済交流に関する調査・研究〔1〕〔富山大学日本海経済研究〕
- 泉屋叢考 第23輯〔住友史料館〕
- 住友史料叢書〔12〕〔思文閣出版〕
- 文化財〔美術工芸品等〕の防災に関する手引き〔文化庁文化財保護部〕
- 阪神・淡路大震災にかかわる史料保存活動の記録―その時をを考え、行動したのか―〔全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会〕
- 〔升堂記〕〔東京大学史料編纂所所蔵〕
- 翻刻ならびに索引〔関山邦宏〕
- 中央大学史料集 第15、16集〔中央大学広報部大学史編纂課〕
- 神奈川大学史料集 第14、15集〔神奈川大学〕
- 九州大学史料叢書 第6輯〔九州大学史料室〕
- 国士館80年の歩み〔国士館〕
- アイヌと狩猟採集社会〔大明堂〕
- 史話夜話こぼればなし〔工藤三嘉男〕
- ポン カンピソシ 2、3〔北海道立アイヌ民族文化センター〕
- 〔増訂大日本地震史料〕〔日本地震史料〕〔新収日本地震史料〕の正誤表〔日本電気協会〕
- 〔日本の歴史地震史料〕拾遺、拾遺別巻〔日本電気協会〕
- 歴史的河川構造物事例集 その1〔建設省土木研究所河川環境研究室〕
- 復原・江戸の町〔筑摩書房〕
- 石炭研究資料叢書 第18、20輯〔九州大学石炭研究資料センター〕
- 川崎の紙漉〔古澤栄一〕
- 中笠家文書にみる酢作りの歴史と文化 1、5〔日本福祉大学知多半島総合研究所〕
- 茶の文化と効能国際シンポジウム論文集〔Organizing Committee of ISTech〕
- 二十年のあゆみ〔婦中土地改良区〕
- 近世・近代日本の市場構造〔東京大学出版会〕
- 画像蒐成 V、VI〔仏教美術研究上野記念財団助成研究会〕
- 金銅仏 日本・韓国の古代仏教彫刻〔東北電力株式会社〕
- 浮世絵 明治の競馬〔小学館〕
- 三條西実隆自筆本〔一葉抄〕の研究〔笠間書院〕
- 古典講演シリーズ 3 商売繁昌江戸文学と家業〔国文学研究資料館〕
- 国文学年鑑 平成9年(1997)〔国文学研究資料館〕
- 〔国文学研究資料館史料叢書3 町村制の発足〕〔国文学研究資料館史料館〕
- 史料館研究紀要 第30号〔国文学研究資料館史料館〕
- 史料館所蔵史料目録 第68集〔国文学研究資料館史料館〕
- 史料管理学研修会講義要綱 平成11年度(通算第45回)〔国文学研究資料館史料館〕
- 原典講読セミナー 1 近世宮廷の和歌訓練〔国文学研究資料館〕
- 廣文庫群書索引 補訂〔藤村潤一郎〕
- 解説中世留守家文書〔水沢市教育委員会〕
- 近世留守家文書 第1、10集〔水沢市立図書館〕
- 青森県史叢書 平成9年度〔上〕、〔下〕〔青森県〕
- 岩手県立博物館調査研究報告書 第13冊〔岩手県文化振興事業団〕
- 鹿角市史資料編 第1、3集〔鹿角市〕
- 鹿角市史資料編 第4、6、8、10、15、24、26、27、29集〔鹿角市役所〕
- 舟形町史資料集(第9、10巻)〔舟形町教育委員会〕
- そうわの古文書 6〔総和町教育委員会・町史編さん室〕
- 石神後鑑記 付・石神後鑑記の検討〔南河内町〕

鹿沼市史 資料編〔鹿沼市〕

南河内町史 通史編 自然・考古

(第9巻)、古代・中世(第9巻)、

(古代・中世別冊)、近世(第8巻)、

近現代(第7巻)〔南河内町〕

太田市歴史年表〔太田市〕

市原市史(中巻、別巻)〔市原市〕

市原市史資料集(近世編2)〔市原

市〕

成田市史叢書 第1集〔成田市教育

委員会〕

茂原の古文書史料集 第4集〔茂原

市立図書館〕

野田市史編さん調査報告書 第3集

〔野田市〕

鎌ヶ谷市郷土資料館調査報告書 VI

〔鎌ヶ谷市郷土資料館〕

品川区史料(11)〔品川区教育委員

会〕

第6回江戸東京たてももの園セミナー

報告書『職人技の東京』―路上の

名建築―〔東京都江戸東京博物館

分館江戸東京たてももの園〕

東京都江戸東京博物館調査報告書

第3〜5集〔財団法人東京都歴史

文化財東京都江戸東京博物館〕

多摩の代官(財) たましん地域文

化財団〕

平塚市史叢書 1〔平塚市〕

〔神奈川県〕

神奈川の東海道(上)〔神奈川県東海

道ルネッサンス推進協議会〕

近世越登賀(越中・能登・加賀)史

料1第2〔桂書房〕

塩沢町史資料調査報告書(1)、(2)

〔塩沢町史編集委員会中世史部会〕

津沢町郷土史資料集 1〔小矢部市

生涯学習講座歴史研究会〕

和宮の通行〔浅科村教育委員会〕

各務原市民の戦時体験〔各務原市教

育委員会〕

各務原市資料調査報告書 第22、23

号〔各務原市歴史民俗資料館〕

岐阜県議会史 第6巻〔岐阜県議会〕

各務原市民の戦時写真〔各務原市教

育委員会〕

本川根町史 資料編1〔本川根町〕

図説森町史〔森町〕

磐田市資料叢書 第2、3集〔磐田

市教育委員会〕

沼津市史編さん調査報告書 第11、

12集〔沼津教育委員会〕

新修名古屋市史報告書 3〔名古屋

市総務局〕

ふるさとの年輪 明和町制40周年記

念誌〔明和町〕

鳥羽市における被差別部落の歴史

〔鳥羽市教育委員会〕

料館友の会〕

写真集 枚方市50年〔枚方市〕

泉佐野市史資料 第1集〔泉佐野市

教育委員会〕

兵庫岡方文書 第1輯第1巻〜第8

輯第3巻〔神戸市教育委員会〕

鳥取に流れ着いた朝鮮人 文政二年

伯耆国赤崎沖漂流一件史料集〔鳥

取県立博物館〕

長船町史 刀剣編史料、刀剣編図録

〔長船町〕

福岡県史 近代資料編〔福岡県〕

田平町町勢要覧〔正編〕、資料編

〔田平町〕

奄美郷土史年表〔鹿児島県立図書館

奄美分館〕

青森県立郷土資料館調査報告書 第

40集 考古11〔青森県立郷土資

料館〕

北上市文化財調査報告 第60、63集

〔北上市教育委員会北上市立埋蔵

文化財センター〕

北上市埋蔵文化財調査報告 第12、

14、17、19、25、30集〔北上市教

育委員会北上市立埋蔵文化財セン

ター〕

東北歴史資料館資料集 43〔東北歴

史資料館〕

寒河江市史編纂叢書 第59、60集

〔寒河江市教育委員会〕

西郷村の文化財〔西郷村教育委員会〕

総和町史編さん民俗部会中間報告書

〔総和町教育委員会町史編さん室〕

八千代の文化財〔八千代町教育委員

会〕

茨城県教育財団文化財調査報告 第

138〜151集〔茨城県教育財

団〕

上福岡市史 資料編第1巻〔上福岡

市〕

鳩ヶ谷市の文化財 第20、21集〔鳩

ヶ谷市教育委員会〕

春日部市遺跡調査会報告書 第6、

8集〔春日部市遺跡調査会〕

朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書

第10、12集〔朝霞市教育委員会〕

船橋市内遺跡発掘調査報告書 平成

8〜10年度〔船橋市教育委員会〕

千葉県船橋市夏見台遺跡 第10次発

掘調査報告書〔船橋市遺跡調査会〕

小平市史料集 第10、11集〔小平市

教育委員会〕

武蔵村山市文化財資料集 18〔武蔵

村山市教育委員会〕

葛飾区郷土と天文の博物館考古学調

査報告 第7集〔葛飾区郷土と天

文の博物館〕

港区文化財調査集録 第4集〔東京

港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告〔24〕、25〔港区教育委員会〕

歴史の道調査報告書 第5集〔東京都教育庁生涯学習部文化課〕

地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書 4―3、5―2、6、7―1、7―2〔帝都高速度交通

営団〕

借生園西遺跡〔建設省関東地方建設局相武国道工事事務所、東京都昭

島市教育委員会、借生園西遺跡調査団〕

大神古墳〔昭島市教育委員会〕

三島野屋敷・下覚東南遺跡 Ⅱ〔世田谷区教育委員会生涯学習課文化財係〕

喜多見陣屋遺跡 Ⅳ〔世田谷区教育委員会文化財係〕

喜多見中通南遺跡〔世田谷区教育委員会文化財係〕

喜多見中通南遺跡〔世田谷区教育委員会文化財係〕

江戸駿河台の旗本屋敷跡〔明治大学考古学博物館〕

北区の仏像〔東京都北区教育委員会生涯学習部生涯学習推進課〕

神奈川県民俗調査報告 20〔神奈川県立歴史博物館〕

横浜市文化財総合調査概報 13〔横浜市教育委員会文化財課〕

横浜の近代建造物〔横浜市教育委員会文化財課〕

廟王蔵地〔中華会館〕

横浜市の文化財調査報告書 第21輯の2、25輯の3、26輯〔横浜市教育委員会〕

福井県指定文化財舟津神社大鳥居修理工事報告書〔舟津神社事務所〕

山梨県史民俗調査報告 第4集〔山梨県〕

長野市文化財マップ〔長野市教育委員会〕

美濃加茂市文化財調査集録 第3集〔美濃加茂市教育委員会文化課〕

裾野市史資料叢書 4〔裾野市教育委員会教育部署市史編さん室〕

静岡県周知郡森町天宮山郷遺跡発掘調査報告書〔森町教育委員会〕

豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第20集〔豊橋市教育委員会生涯学習部文化振興課牟呂地区遺跡調査会〕

豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第46、47、49、51集〔豊橋市教育委員会文化振興課牟呂地区遺跡調査会〕

愛知県中世城館跡調査報告 Ⅰ、Ⅱ〔文化財図書普及会〕

愛知県の文化財〔文化庁、愛知県教育委員会〕

平松楽斎文書 22〔津市教育委員会〕

織豊期城郭基礎調査報告書 1〔滋賀県教育委員会〕

向日市埋蔵文化財調査報告書 第42、44、46、47、49集〔向日市埋蔵文化財センター、向日市教育委員会〕

大阪市の歴史〔大阪市〕

写真で見る枚方市 概要版〔枚方市〕

大谷女子大学資料館報告書 第34冊〔大谷女子大学資料館〕

泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要〔泉佐野市教育委員会〕

阪南市埋蔵文化財報告ⅩⅩⅢ、ⅩⅩⅣ〔阪南市教育委員会社会教育課〕

狭山池〔狭山池調査事務所〕

黒田〔作屋〕清右衛門家文化財調査報告書〔桑田優〕

平城宮発掘調査出土木簡概報 33、34〔奈良国立文化財研究所〕

鳴門市史 現代編 1〔鳴門市〕

香川県の民俗芸能〔瀬戸内海歴史民俗資料館〕

九州の寺社シリーズ 16〔日向佐土原 大光禅寺〕〔九州歴史資料館〕

水巻町文化財調査報告書 第7集〔水巻町教育委員会〕

特別史跡名護屋城跡〔佐賀県立名護屋城博物館〕

集〔佐賀市教育委員会〕

玖珠町の文化財〔玖珠町教育委員会〕

宮崎県文化財調査報告書 第40、43集〔宮崎県教育委員会〕

田野町文化財調査報告書 第29、32集〔田野町教育委員会〕

えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22、23集〔えびの市教育委員会〕

串間市文化財調査報告書 第19集〔串間市教育委員会〕

農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書 平成9、10年度〔宮崎県教育委員会〕

東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書 3〔宮崎県教育委員会〕

都城市文化財調査報告書 第23、25、35、37、38、41、44、47集〔宮崎県都城市教育委員会〕

高城町文化財調査報告書 第7、8集〔高城町教育委員会〕

高原町文化財調査報告書 第3、5集〔宮崎県高原町教育委員会〕

特別史跡西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書Ⅱ〔宮崎県教育委員会〕

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第1、12集〔宮崎県埋蔵文化財センター〕

宮崎県中世城館跡緊急分布調査報告書 Ⅰ、Ⅱ〔宮崎県教育委員会〕

佐賀市文化財調査報告書 第87、97

国衙跡保存整備基礎調査概要報告書

I Ⅲ〔宮崎県教育委員会〕

始良町文化財調査報告書 1〔鹿児島

島県始良町教育委員会〕

市原市史 下巻〔市原市〕

原典講読セミナー 2『とはずがた

り』のなかの中世〔国文学研究資

料館〕

北海道立文書館史料集 第14〔北海

道立文書館〕

上磯町の文化財〔上磯町教育委員会〕

日本歴史地名大系 第29巻1 兵

庫島の地名1〔平凡社〕

成田山新勝寺史料集 第5巻〔大本

山成田山新勝寺〕

北海道開拓記念館研究報告 第16号

〔北海道開拓記念館〕

釧路叢書 第34巻 坂本友規日誌

下巻〔釧路市〕

釧路新書 24〔釧路市〕

新編弘前市史 特別編〔弘前市市長

高室企画課〕

新青森市史 別編2〔青森市〕

田村家文書を読む〔二関市博物館〕

千厩町史 第1巻〔千厩町〕

小泊村史 資料編、年表〔小泊村〕

盛岡藩雜書 第11巻〔盛岡教育委員

会〕

今井家文書〔石巻古文書の会〕

東北歴史資料館 資料集37、41〔東

北歴史資料館〕

能代市史 資料編 近世1〔能代市〕

鹿角市史資料編 第30集〔鹿角市役

所〕

能代市史資料 第27集〔能代市史編

さん室〕

米沢市史 大年表・索引、索引・要

覧〔米沢市〕

新庄市史 第5巻〔新庄市〕

村山市 近現代編 上巻、下巻〔村

山市〕

寒河江市史編纂叢書 第61、62集

〔寒河江市教育委員会〕

庄内史料集 13、14〔鶴岡市〕

新庄市史編集資料集 第29号〔新庄

市教育委員会〕

二本松市史 第1巻 通史編1〔二

本松市〕

梁川町史 第2巻 通史編2〔梁川

町〕

桑折町史 第4巻 資料編1、第8

巻 資料編5〔桑折町史出版委員

会〕

西会津町史 第5巻〔下〕〔西会津

町史刊行委員会〕

中條政恒宛書簡集〔郡山市教育委員

会〕

稽徴録〔大阪経済大学日本経済研究

所〕

茨城大学附属図書館郷土史料双書1

—(8)〔茨城大学附属図書館〕

いまいち市史 史料編・近現代5

〔今江市〕

鹿沼市史叢書 3、4〔鹿沼市〕

新編高崎市史 資料編7〔高崎市〕

浦和市史 第5巻〔浦和市〕

幸手市史 近・現代資料編2〔幸手

市教育委員会〕

三郷のあゆみ〔三郷市〕

岡録春日部の歴史〔春日部市〕

福島市史資料叢書 第73、74輯〔福

島市教育委員会〕

桑折町史叢書 第1集〔4〕、〔6〕、

〔7〕、〔12〕、〔23〕、第5、第7

集〔桑折町史編纂委員会〕

埼玉県史料叢書 9〔埼玉県〕

鳩ヶ谷市の古文書 第23集〔鳩ヶ谷

市教育委員会〕

幸手市史調査報告書 第8集〔幸手

市教育委員会〕

浦和史料叢書 5〔浦和市〕

〔上福岡〕市史調査報告書 第16、

17集〔上福岡市教育委員会〕

〔千葉県史〕千葉県の歴史 資料編

考古3、中世1、2 近現代4、

7〔千葉県〕

〔千葉県史〕千葉県の自然誌 本編

2、3、4〔千葉県〕

袖ヶ浦市 資料編1、自然・民俗編

〔袖ヶ浦市〕

成田市史叢書 第2集〔成田市教育

委員会〕

茂原の古文書史料集 第5集〔茂原

市立図書館〕

香取神宮史料調査報告書

〔2〕〔佐原市教育委員会〕

図説白山ノ民権〔町田市立自由民権

資料館〕

武蔵野市史 資料編 目録3〔武蔵

野市〕

多摩市史 通史編2〔多摩市〕

足立風土記稿 一地区編4、6、7、

9、10〔足立区教育委員会〕

江戸東京博物館シンポジウム報告書

2 江戸東京における首都機能の

集中〔東京都江戸東京博物館〕

江戸東京博物館史料叢書 1、2

〔東京都歴史文化財団東京都江戸

東京博物館〕

都市資料集成 第1巻①、②〔東京

都〔東京都公文書館〕

東京都古文書集 第17集 吉野家文

書〔4〕〔東京都教育庁生涯学習

部文化課〕

葛飾区古文書史料集 11〔葛飾区郷

土と天文の博物館〕

民権ブックス 12号〔町田市教育委

員会〕

(以下次号)

# 彙報

## ○史料の収集

本年度はマイクロフィルムにより、信濃国高井郡東江部村山田理右衛門家文書、信濃国高井郡中野村綿貫家文書を収集した。概要は本号「新収史料紹介」を参照のこと。

## ○所蔵史料保存のための複製

所蔵史料の利用による劣化・損傷を予防し、よりよい保存管理と利用の効率化を図るため、当館所蔵史料の複製化事業を進めた。今年度は、「日本実業史博物館準備室山蔵史料」の内、写真一七八〇点の撮影と二五九三点のCD-ROM画像人力を行った。

## ○史料の所在調査

本年度は、信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書、秋田鉱山史料調査（阿仁町伝承館など）について実施した。山田家の調査概要は本号「史料所在調査報告」を参照のこと。

## 調査

史料目録第七二集作成のため、上野原町役場、大月市役所、河口湖町役場、下部町役場、山梨市役所、山梨県立図書館等を対象に調査を行った（一〇月一八日～二〇日、一二月

二二日、鈴江英一）。

史料目録第七三集作成のため、福島県文化センター、根本暢三氏宅を対象に調査を行った（十一月一七日～二〇日、安藤正人）。

○史料保存利用機関事務連絡および調査

吉岡栄美子が住友史料館、国際日本文化研究センター、京都府京都文化博物館（一月二九日～三一日）、福井県立図書館、大阪教育大学附属図書館、大阪市立大学学術情報総合センター（三月一四日～一六日）で実施した。

○運営協議会と評議員会の開催

二〇〇〇年六月二十九日、九月一日、一〇月二四日、十一月一七日、二〇〇一年二月二〇日に運営協議会が、二〇〇〇年七月一九日、十二月一日、二〇〇一年三月一二日に評議員会がそれぞれ開催され、管理運営について協議なしい評議された。

○出版物の刊行

1 「尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書目録（その二）」（担当渡辺浩一）を「史料館所蔵史料目録」第七一集として、「山梨県下市町村役場文書目録（その二・完）」（担当鈴江英一）を同じく第七二集として、「陸奥国白河郡栃本村根本家文書目録」（担当安藤正人）

を同じく第七三集としてそれぞれ刊行した。

2 「史料館研究紀要」第三二号を刊行した。内容は次の通り。

・児童自立支援施設の記録史料の保存と公文書館―専門文書館の必要性を巡って― 二井仁美

・近現代史料論の形成と課題―古文書学などの接点について― 鈴江英一

・秩父事件と戸長役場史料 丑本幸男

・近世後期宇和島藩伊達家の家格問題―「御直請一件」・「中将・少将座着一件」をめぐる― 倉持隆

・〈小特集「歴史編纂の比較史」〉  
・朝鮮王朝実録の編纂について 崔承熙

・徳川実紀の編纂について 藤實久美子

・（同右）翻訳（韓国語） 金孝宣  
・討論記録  
（通訳：方美英、金孝宣）

3 「史料館報」第七三号および第七四号（本号）を刊行した。なお、次号は本年九月刊行予定。

4 史料叢書第五巻「農民の日記」（担当高木俊輔、名著出版）を刊行した。

○文部科学省科学研究費の交付

・基礎研究（C）（2）「史料管理学」文献情報の調査・収集と蓄積・検索システムに関する研究」（代表者山田哲好）に三年計画の一年目として一五〇万円が交付された。

○二〇〇〇年度史料管理学研修会修了証書の授与

所定の教科目を履修し、レポート審査に合格した受講者に修了証書を授与した。詳細は本号「二〇〇〇年度史料管理学研修会修了者一覧」を参照のこと。

○館内研究会

「二二二回」九月二六日  
「児童自立支援施設が所蔵する記録史料の保存」 二井仁美

「史料館における情報化の試みとアイブズ」 大友一雄

「二二三回」一一月三〇日  
「山梨県下市町村役場文書目録（その二・完 第七二集）」の目録編成について 鈴江英一

「未整理史料整理の前提について」  
「未整理史料（真田家）整理の経過報告」 倉持隆

「二二四回」一二月五日  
「国際日本文化研究センターにおける民事判決原本のデータベース

化) 石井紫郎

〔国際日本文化研究センター教授〕

〔二二五回〕一月二五日

〔三井文庫旧蔵資料(袋綴本)の目録編成〕 藤實久美子

〔陸奥国白河郡栃本村根本家文書目録(第七三集)の目録編成について〕 安藤正人

〔二二六回〕三月六日

近世後期宇和島藩における浦政と浦方文書―三浦田中家文書「魁書」と「御廻分寄記録」を素材として

菅原憲二

○大学院教育協力(特別共同利用研究員)

通年

久住真也(中央大学大学院)

長期研修

古賀康人(帝京大学大学院)

吉村日出東(九州大学大学院)

西村慎太郎(学習院大学大学院)

和田華子(お茶の水女子大学大学院)

○長期在外研究

渡辺浩一が八月二七日〜二〇〇一年六月二六日、ケンブリッジ大学(英国)において文部科学省在外研究員として研究を行う。

○海外出張

1 安藤正人が、①文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(2)

〔第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査〕のため、九月

一七日〜二七日セビリア(スペイン)、二月一八日〜二五日上海(中国)、三月四日〜三月二二日ク

アランプール(マレーシア)、

②「アジア歴史資料整備事業に關

わる海外事情調査」(内閣官房内閣外政審議室)のため、一二月一

日〜一六日キャンベラ、シドニー(オーストラリア)で調査を行

った。

2 青木睦が、①三月一七日〜二四日

まで「台湾総督府文書の蒐集と学

際的研究」(中央大学科研)のため、台湾省文献委員会(台中市)

に、②六月六日〜一〇日まで、台湾省文献委員会主催「台湾文献史料整理研究成果研討会」において

「被災史料の救助と修復復元」と題して報告するため出張した。

○史料館研究・教育活動一覧(二〇〇〇年発表のもの。ただし大学出

講は二〇〇〇年度)

高木俊輔  
論文「明治初期竹沢寛三郎支配期の文書引継・保管問題」(編著『日本近世史料学研究―史料空間論への旅立ち―』北海道大学図書刊行会、二月)

・目録「史料館所蔵史料目録 第七〇集 信濃国筑摩郡下今井村桃井家文書目録」(史料館、三月)

・小論「年貢半減」(『朝日新聞』八月二日)

・論文「農民日記史料の可能性」(『日本史学年次別論文集』近世上、一九九八年版学術文献刊行会・再録、一二月)

・論文「世直し論」(『芳賀登著作選集』七、雄山閣出版、一〇月)

・講演「近世農民の日記を読む」(埼玉県古文書解読講習会、埼玉

県県民活動総合センター、八月一日)

○日  
・大学出講 日本女子大学大学院文学研究科「史料学研究」

・著書「キリスト教解禁以前一切支丹禁制高札撤去の史料論」岩田書院、一月

・論文「町村制における文書管理の性格―近現代史料論としての考察」(『日本近世史料学研究―史料空間論への旅立ち―』北海道大学図書刊行会、二月)

・論文「史料整理論の再考―近現代史料整理論ノートⅢ―」(『史料館研究紀要』第三二号、三月)

・論文「函館・仙台洋教事件における“寛典の処置”と禁教政策への

影響」(三田史学会『史学』第六九巻第二号、三月)

・小論「戦後札幌のキリスト教について」(『札幌の歴史』第三九号、札幌市教育委員会、八月)

・小論「黒板勝美と“古”文書館」(『日本古文書学会』『古文書研究』第五二号、一二月)

・講義「歴史資料としての公文書保存―公文書のライフサイクルを考

える―」(埼玉県立文書館文書史料取扱講習会、二月一日、浦和市)

・講義「近現代資料の整理と目録編成/公開と利用について」(北海道立アイヌ民族文化研究センター職員研修会、札幌市、二月二八日)

・講義「資料整理論①」(個別課題研究演習①)(国立公文書館公文書館専門職員養成課程、東京都、一月二七日、一二月七日)

・研究発表「近代稟議制文書についての試論」日本古文書学会大会、東京都、一〇月八日

山田哲好  
・目録「史料館所蔵史料目録 第六九集 信濃国松代真田家中依田家文書目録(その一)」(史料館、三月)

・共同研究報告「国文学研究資料館史料館所蔵の渋沢コレクション史料について」(アチック・ミュー

ン

ム

ム

ム

ム

ム

ム

ム

ム

ム

ム

- ゼアム・コレクションの研究、国立民族学博物館、一月四日)
- 報告「インターネットによる史料情報公開の問題点について」(全図歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会近世古文書研究会、元興寺文化財研究所、二月二六日)
- 小論・報告「記録史料所在情報のインターネットによる公開の問題点と課題」(人文科学とコンピュータシンポジウム じんもんこん二〇〇〇 デジタルアーカイブ—二一世紀へ持っていくもの—、情報処理学会・人文科学とコンピュータ研究会主催、立命館大学アト・リサーチセンター、一二月一五日)
- 研究助成 文部科学省基盤研究(C)(2)「史料管理学」文献情報調査・収集と蓄積・検索システムに関する研究」
- 大学出講 立正大学 博物館実習(記録史料の調査・収集・整理・保存・管理と利用)
- 五島敏芳
  - 論文「延宝五年の五郎兵衛新田村『本高』所持状況—本高反歩名寄帳の紹介から」(信州農村開発史研究所紀要「水と村の歴史」第一五号、七月)
  - 小論「百姓とその家族の死をめぐる」(NHK学園「古文書通信」第四五号、五月)
  - 教材「④袖乞彦右衛門病死につき埋葬願書」「⑦百姓大吉娘ひさが狐に憑かれ家出した旨の届書」解説(NHK学園/三省堂「古文書を読む」解説実践コース・解説ノート)、四月)
  - 報告「史料の情報資源化の実践例—検地帳・名寄帳・宗門人別帳類のデータベース化から」(信州農村開発史研究所、八月二四日、浅科)
  - 報告「百姓欠落の変質と展開—武州小川村の事例を中心に」(関東近世史研究会大会支援報告、九月二日、東京)
  - 出講 学習院高等科 地理歴史科「日本史①」(非常勤講師)
  - 論文「近代的史料管理秩序の形成—高山町会所・戸長役場文書」の引継目録から見た—」(日本近世史料学研究—史料空間論への旅立ち—)北海道大学図書刊行会、二月)
  - 編著「戸長役場の史料」(史料叢書四)、史料館編、名著出版、三月)
  - 紹介「群馬県地方史研究の動向」(「信濃」第六〇五号、信濃史学会、六月)
  - 編著「上野国神社明細帳」二(東群馬郡・勢多郡二)(群馬県文化事業振興会、七月)
  - 編著「高津仲次郎日記」三(群馬県文化事業振興会、七月)
  - 著書「地方名望家の成長」柏書房、一月)
  - 大学出講 千葉大学文学部「文書館学a」、駒沢大学大学院人文科学第一研究科「日本史特講」、東北大学文学部・大学院文学研究科「日本近世・近代史特論」
  - 渡辺浩一
    - 目録「史料館所蔵史料目録 第七集 尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書(その2)」(史料館、八月)
    - 論文「近世都市高山における『町方』文書の保管構造」(「日本近世史料学研究—史料空間論への旅立ち—」北海道大学図書刊行会、二月)
    - 研究動向「日本近世史料学研究の現状と課題」(同前)
    - 研究展望「史料空間論への旅立ち」(同前)
    - 講義「まちの記憶—播州三木町の歴史叙述」(国文学研究資料館原典講読セミナー、八月二一〜二三日)
  - 文部科学省長期在外研究「比較都市史料学の研究」(ケンブリッジ大学東洋学部日本学科、同大学歴史人口学研究所、八月二七日〜二〇〇一年六月二六日)
  - 青木 睦
    - 論文「高山町年寄文書の保管容器について」(「日本近世史料学研究—史料空間への旅立ち—」北海道大学図書刊行会、二月)
    - 論文「文書・記録の保存と管理」(「今日の古文書学」第二二卷、史料保存と文書館(雄山閣、六月)
    - 論文「被災史料の救助と修復復元」(「台湾文献史料整理研究成果検討会要旨集」台湾省文献委員会、六月)
    - 小論「図書館と保存」(「図書館だより—島根県立図書館報」第一三六号、九月)
    - 報告「被災史料の救助と修復復元」(台湾省文献委員会主催台湾文献史料整理研究成果研究会、六月八日)
    - 報告「台湾九・二一集集大地震における記録史料・歴史的文化遗产の被災状況」(東アジア近代史学会、早稲田大学、六月二四日)
    - 講義「史料保存の基本」(島根県立図書館主催講習会、七月一八日)
    - 講義「史料保存の基礎」(長野県

- 立歴史館主催第二回文献史料保存活用講習会、一〇月一三日)
- 報告「二〇〇五年臭化メチル全廃問題と害虫対策」(全史料協大分大会研修会、一〇月三十一日)
- 講演「文書館・図書館の保存環境と虫害対策の現状」(文化財保存環境フォーラム、総評会館、一月二四日)
- 講義「文書資料保存の理論と実務」(法政大学産業情報センター・企業史料協議会主催第五回ビジネスアーキビスト養成講座、一月二九日)
- 大学出講 学習院大学総合講座「記録保存と現代」(分担講義、一月)
- 安藤正人
  - 論文「松江藩郡奉行所『民事訴訟文書』の史料学的研究」(日本近世史料学研究—史料空間論への旅立ち—北海道大学図書刊行会、二月)
  - 注釈・監修「本渡市古文書史料集・天草大庄屋木山家文書 御用触写帳第五巻」(本渡市教育委員会、三月)
  - 編集 What Students in Archival Science Learn: a bibliography for teachers, 2nd edition (draft version) . Section on Archival Edu-
- cation and Training of the International Council on Archives (ICA/SAE) . Tokyo, 9, 2000.
- 小論「アーカイブズと社会の記憶装置」の充実を—山口県文書館開館40周年に寄せて—(読売新聞西部本社版夕刊文化欄、六月一九日)
- 小論「20世紀アジアの『記憶』再生を—戦争期の記録破壊に責任—アーカイブズ国際会議で考えた日本の課題」(朝日新聞東京本社版夕刊文化欄、一〇月六日)
- 講義「アーカイブズとアーキビスト」(法政大学産業情報センター・企業史料協議会主催ビジネスアーキビスト養成講座、一月九日、東京)
- 報告「Literature on archival science: trends. The 10th Symposium on Archival Education and Training. Section on Archival Education and Training of the International Council on Archives (ICA/SAE) (九月二〇日、セビリア、スペイン)
- 報告「袋物一件書類の整理と目録編成—松江藩郡奉行所文書を例に」(早稲田大学岡松文書研究会、一月二五日)
- 報告「国際標準成立のバックグラウンド」(オープンセミナー・イン・きょうと「記録史料(アーカイブズ)の情報管理をめぐる国際動向と技術革新」、一二月二日、京都市)
- 講演「世界の文書館、日本の文書館」(山口県文書館シンポジウム「文書館の昨日・今日・明日—世紀を越えて—」、一月二三日、山口市)
- 大学出講 学習院大学総合基礎講座「記録保存と現代」、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻「文書館学・アーカイブズ研究」
- 研究助成 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)「第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査」(研究代表者) 大友一雄
  - 論文「幕府寺社奉行と文書管理」(『日本近世史料学研究』北海道大学図書刊行会、二月)
  - 論文「近世武家社会の年中儀礼と人生儀礼—はじめての御目見に注目して—」(『日本歴史』第六三〇号、一月)
  - 分担執筆「東大和市史」通史編「享保の改革と村社会」(東京都東大和市、三月三一日)
- 報告「餌差と烏間屋」(千葉県史近世史部会、於千葉県史編さん室、四月一五日)
- 報告「史料館とアーキビスト—アーカイブズ学を考える—」(日本歴史学協会シンポジウム「文書館・アーキビスト問題」報告、於早稲田大学小野講堂、六月一七日)
- 報告「史料館における情報化の試みとアーカイブズ」(東京大学史料編纂所「前近代日本の史料遺産プロジェクト」第二回公開研究会、於東京大学史料編纂所大会議室、一〇月七日)
- 報告「近世の武家儀礼と江戸・江戸城」(日本史研究会大会報告、於仏教大学、一月一八日)
- 講演「年中儀礼にみる将軍と大名」(土佐山内家宝物資料館主催、於高知市立自由民権記念館、一月二五日)
- 大学出講 国学院大学文学部史学科(史料論)、お茶の水女子大学文教育学部人文科学科(史料情報論)(前期のみ) 山崎 圭
  - 論文「近世後期の年貢徴収をめぐる勘定所—代官関係の史料学的考察」(『日本近世史料学研究』北海道大学図書刊行会、二月)
  - 論文「文久期幕領の年貢増徴と代

官・勘定所―主に信濃を事例として―〔信濃〕五二巻二号、二月〕

・論文「幕末における郡中取締役の成立と地域―信濃国佐久郡宿岩村阿部氏の活動―」〔史料館研究紀要〕三十一号、三月〕

・論文「信州幕領における地域支配と陣屋元村名主・郡中代」〔史学雑誌〕一〇九編八号、八月〕

・史料紹介「文久期幕領の年貢増徴に関する史料の紹介」〔水と村の歴史〕一五号、七月〕

・研究助成 科学研究費補助金奨励研究 (A) 「近世・近代移行過程における中間層の役割と地域社会に関する研究」(二年目)

・編著「日本人物文獻体系 憲政編」(皓星社、一月)

・編著「近代外交回顧録」全六巻(ゆまに書房、六月)

・共編「今日の古文書学 一二巻」(雄山閣、七月)

・共編「台湾総督府文書目録」(ゆまに書房、一〇月)

・編著「拓務省統計」全四巻(クレース出版、一〇月)

・共編「伊沢多喜男関係文書」(芙蓉書房出版、一二月)

・論文「詔書・勅書・勅語」〔史料館報〕第七三号、九月)

・論文「台湾総督府文書目録の電子化と国際標準」(国際科学研究报告書「台湾総督府文書の総合的研究」中京大学、一〇月)

・報告「目録の電子化と国際標準」(中華民国台湾省文獻委員会主催「台湾文獻史料整理研究學術検討会」、七月)

・報告「田健治郎の台湾総督就任事情」(中華民国中央研究院台湾史研究所主催「田健治郎与台湾史研究シンポジウム」、一二月)

・講演「幕末期の飯能と武州一揆」(飯能市郷土史研究会二〇周年記念講演、飯能市郷土館、四月二二日)

・講演「伊藤博文と山縣有朋―そのリーダーシップをめぐる―」(駿河台大学・飯能市教育委員会主催「市民の大学」、五月二三日)

・講演「歴史教科書に見る現在の台湾」(社団法人尚友倶楽部、一〇月)

・書評「田澤薫『留岡幸助と感化教育 思想と実践』を読んで」〔日本教育史研究〕第一九号、一〇月)

・共編「江戸幕府大名武鑑編年集成」第二期 第七巻―第一二巻(東洋書林、四月)

・共編、同右、第三期 第一三巻―第一八巻(東洋書林、一二月)

・共編「鷗外歴史文学集 伊沢蘭軒(一)」第六巻(岩波書店、五月)

・共編、同右、「伊沢蘭軒(二)」第七巻(岩波書店、一二月)

・論文「江戸時代の史料蒐集と保存」〔講座 今日古文書学〕第一二巻、雄山閣、六月)

・論文「書物師」〔近世の身分的周縁〕第二巻、吉川弘文館、七月)

・論文「近世書籍史料論に関する覚書」〔史料館研究紀要〕第三一号、三月)

・論文「近世書籍史料研究の現在」〔歴史評論〕第六〇五号、八月)

・文献紹介 歴史資料ネットワーク編「歴史のなかの神戸と平家」〔歴史学研究会〕第七三九号、八月)

・第二一回日本出版学会賞受賞(著書「武鑑出版と近世社会」東洋書林、於私学会館、一二月一三日)

○人事異動

・採用(二〇〇〇年十一月一日付) 研究支援推進員 清水泉二

・採用(二〇〇〇年二月一八日付) 研究支援推進員 渡辺嘉雄

・共編「江戸幕府大名武鑑編年集成」第二期 第七巻―第一二巻(東洋書林、四月)

・共編「伊沢多喜男関係文書」(芙蓉書房出版、一二月)

・論文「詔書・勅書・勅語」〔史料館報〕第七三号、九月)

・論文「台湾総督府文書目録の電子化と国際標準」(国際科学研究报告書「台湾総督府文書の総合的研究」中京大学、一〇月)

・報告「目録の電子化と国際標準」(中華民国台湾省文獻委員会主催「台湾文獻史料整理研究學術検討会」、七月)

・報告「田健治郎の台湾総督就任事情」(中華民国中央研究院台湾史研究所主催「田健治郎与台湾史研究シンポジウム」、一二月)

・講演「幕末期の飯能と武州一揆」(飯能市郷土史研究会二〇周年記念講演、飯能市郷土館、四月二二日)

・講演「伊藤博文と山縣有朋―そのリーダーシップをめぐる―」(駿河台大学・飯能市教育委員会主催「市民の大学」、五月二三日)

・講演「歴史教科書に見る現在の台湾」(社団法人尚友倶楽部、一〇月)

・書評「田澤薫『留岡幸助と感化教育 思想と実践』を読んで」〔日本教育史研究〕第一九号、一〇月)

・共編「江戸幕府大名武鑑編年集成」第二期 第七巻―第一二巻(東洋書林、四月)

◎閲覧業務停止のお知らせ

蔵書点検及び収蔵庫整備の実施にともない、左記の期間の閲覧業務を停止します。

四月三日(月)～五月二日(水)

閲覧業務再開 五月七日(月)

二〇〇一年度史料管理研修会(通算四七回)の開催予定

〈長期研修課程〉

国文学研究資料館 東京会場

前期 七月二日～七月二七日

後期 九月三日～九月二八日

〈短期研修課程〉

富山市

一月五日～一月一六日

(前・後期、短期とも最後の一週間はレポートの作成にあてる)

史料館報 第七四号

平成一三年(二〇〇一)三月三十一日

編集兼 国文学研究資料館

発行者 史料館

〒一四二八八五八

東京都品川区豊町二ノ六ノ〇

電話〇三(三七八五七三三)(代)

FAX〇三(三七八五四四五六)

印刷所 東京都台東区寿三ノ一四ノ五

有限会社 スミダ

電話〇三(三八四二)七三三三